

オールドルーキーから
初めましてのご挨拶



生活支援部
稲岡武彦

2月より生活支援部に勤務することになりました稲岡武彦です。昨年10月に長く勤めた会社を定年退職し、生まれ育った加古川に戻ってきて、はぐるま福祉会で勤務させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介をさせていただきます。1964年10月生まれの60歳です。血液型は、良くいうとおおらか、悪くいうと大雑把と言われるO型です。特技は、剣道と居合道です。休日には、畑仕事や稲作、低山登山、読書などを楽しんでいるオールドルーキーです。これからどうぞよろしくお願いいたします。

その人らしい人生を送る



生活支援部
秦いずみ

はじめまして、1月からはぐるま福祉会 生活支援部でお世話になっている、秦(はだ)いずみと申します。

これまで、老人介護施設や障害者施設で介護福祉士として働いておりました。はぐるま福祉会で働き始めて数カ月が経ちましたが、まだまだ分からないことが多く、日々皆さんに助けられながら支援をさせていただいております。私は「その人らしい人生を送る」という思いを持ちながら支援をさせていただいております。一人ひとりの思いを理解し、その人らしい人生が送れるよう、笑顔で接していきたいと思っております。まだ不慣れで分からないことが多いですが、諸先輩方の助けを借りながら精一杯頑張らせていただきます。よろしくお願いいたします。

ゆつくりでも
少しずつ学びながら



就業支援部
井上典子

4月より就業支援部に勤務させていただきますことになりました、井上典子です。

長年食品関係で働いていたので障害者福祉の分野は未経験で未知の世界ですが、仕事の幅を広げたいという思いから、希望を持って飛び込むことにしました。正直なところ、利用者さんとうちが接していかば良いのか戸惑うこともあり、慣れない仕事に四苦八苦していますが、ゆつくりでも日々少しずつ学びながら、良好な関係を築いていければと思っています。

それぞれの利用者さんには個性があり、難しさも感じますが、一人ひとりと向き合い、寄り添った支援を心掛けて頑張っていきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

一人ひとりに
寄り添った支援を



就業支援部
竹内すず

4月より就業支援部の就労移行支援事業の支援員として働かせていただいている竹内すずです。

今年3月に大学を卒業したばかりの新卒であり、障害分野での経験は障害福祉施設の実習のみでほとんど未経験ですが、大学では社会福祉について学んできました。「障害を持つ人たちにとって『加古川はぐるま福祉会』は厳しい社会から『守られる場所』ではなく、人生を切り開く『力を養う場所』である」という理念にあるように、利用者さん一人ひとりに寄り添い、目の前の方の能力や特性を見極めて支援を行いたいと思います。またそれぞれの方に合った支援で、その方の力や強みを活かした支援が行えるように、日々精進してまいりたいと思います。これからよろしくお願いいたします。

趣味時間探訪!

「利用者さんの休日の過ごし方③」

趣味をた・の・し・む



阿部美代子さん[生活支援センター]

阿部美代子さんは現在、生活支援センターで生活されています。この方の趣味はたくさんあります。

一つ目は、Hey! Say! JUMP、Sexy Zone、嵐、Kinki Kids等のアイドルの推し活をしています。アイドル雑誌は月に4冊を定期購読し、関連DVD、CDも揃えています。好きなアイドルは山田涼介さんと中島健人さんを推している、その話をしてい間はとても良い表情をします。出演している映画やドラマも把握し、映画のパンフレットを買いに行きます。グッズが手に入った時は、とても満足した表情を見せます。

二つ目は、カラオケです。亡き母とよく行っていました。母

との良い思い出です。今も大好きで、レクリエーション活動でもカラオケを一番に楽しんでいます。よく歌われるのは、山田涼介さんの「アジアの夜」、それ以外にも、小泉今日子さんの「あなたに会えてよかった」、酒井法子さん「碧いうさぎ」、国武万里さん「ポケベルが鳴らなくて」が好きで歌います。三つ目は、ゲームです。始まりは、弟がしていたのを自分もやってみて楽しかったようで現在もプレイしています。ドラゴンクエストシリーズを特に好んでプレイされています。今後自分の趣味を追求し楽しまれていく姿を見守っていきたいと思っています。

(生活支援部 芝原由子)

釣りって最高!リラックス&笑顔 今竹栄吾さん[加古川はぐるまの家]



自作のルアー

今竹栄吾さんは、加古川はぐるまの家の就労継続支援B型事業所を利用しており、現在は海苔加工班のメンバーとして企業内での仕事に毎日励んでいます。そんな今竹さんの趣味は釣りです。休みの日には海や川、釣り堀に出かけ、これまでにカサゴ、チヌ、ハゼ、シーバス、ヤマメ、イワナ、ニジマスなど、さまざまな魚を釣ってきました。

釣りを始めたのは小学一年生の頃で、家族と一緒に出かけたのが最初の経験だったそうです。当時はイワシがたくさん釣れましたが、そのイワシを狙って大きな魚が現れ、その魚まで釣れてしまったとのことでした。これをきっかけに、「小魚に似た形のルアーを使えば、大きな魚も釣れるのでは」と興味を持つようになり、自作のルアーで釣りを始めました。

中学生になると、ルアーなど

の仕掛けを自分で購入するようになり、今ではルアーに塗装してアレンジを加えたり、木を削って自作したりもしています。現在はロッドを3本、リールを3個、そして自作や福袋などで集めたルアーを複数所持しているそうです。

釣りをしているときは無心になれてリラックスでき、狙った場所が魚が釣れたときに特に喜びを感じるそうです。釣った魚のうろこ取りや内臓の処理は自分で行っています。

「釣りはおすすめの趣味ですか?」という質問には、「最初は安い道具でも構わないので、まずは魚を釣る楽しさを体験してみたい」と話してくれました。これからの時期はいろいろな魚が釣れ始めるため、ますます楽しみたいそうです。

(就業支援部 山本悠太)